



公益財団法人

大阪産業局

O.B.D.A. OSAKA BUSINESS DEVELOPMENT AGENCY

ベトナム情報レポート（2022年11月30日）

（公財）大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク  
株式会社NCネットワーク

### 【ベトナムの電気自動車の普及状況と将来】

国際エネルギー機関（IEA）の調査によると、2021年の世界の電気自動車（EV）の新車販売台数は前年比2.2倍の約660万台で、新車販売全体の8.6%を占めました。これはバッテリー電気自動車（BEV）とプラグインハイブリッド車（PHEV）を含む数で、そのうちBEVが7割を占めています。地域別では、中国が333万台（全体の51%）、欧州が228万台（同35%）、米国が63万台（同11%）と、この3地域で世界のEV市場をほぼ独占していることとなります（日本は2万台強）。

さて、ベトナムの2021年の新車販売台数は約27万7000台、そのうちEV販売台数は約1000台と、まだまだ僅かです。しかし、昨年、ベトナム最大のコングロマリットVin Group傘下の自動車メーカーVinFastは、同社初となる自社製の電気自動車を市場に送り出しました。VinFastは2017年6月にハイフォン市に設立され、2018年以降、自社製の自動車（ガソリン車）と電動バイクの販売を行ってきましたが、今年7月に当初の予定を早めてガソリン車の生産を停止しました。今後はEVのみに焦点を当てる方針で、既に北米にも進出し、工場の建設やショールームを設置するなど、新興EVメーカーとして精力的に活動を広げています。同社はまた、今年中にベトナム全国15万ヵ所に充電ステーションを設置する計画を発表していて、充電ステーション不足という課題の解決にも取り組んでいます。

VinFast以外にも、メルセデスベンツ、テスラ、トヨタ、ボルボといった主要自動車メーカーがEVやハイブリッド車の国内販売を強化するほか、起亜自動車は昨年導入したEV6モデルを年内に販売開始する予定です。

ベトナム自動車製造業者協会（VAMA）は、ベトナムの車両電動化ロードマップについて、現在から2050年までを3段階に分けて提案しています。それによると、EVの生産台数は、第1段階（2021年～2030年）では2028年に約100万台、急成長期となる第2段階（2030年～2040年）では2040年までに350万台、成長が落ち着いた第3段階（2040年～2050年）では2050年までに450万台で、この時点で新車販売に占めるEVはほぼ100%となる試算です。ある専門家は、ベトナムはガソリン車の生産体系が未熟なことがかえってアドバンテージとなり、EV生産へのシフトが加速する潜在性があると指摘していました。

将来、日本でベトナム製のEVが走る光景が見られるかもしれません。

EV生産において、当初は海外からの調達部品も多くあると予想しますが、ガソリン車の時と同様、現地調達というのが使命となっていきますのでローカル製造業、在ベトナム外資系企業共にEV車本体の生産、充電ステーションのようなインフラ設備に関わる製造需要も上がってくるでしょう。